

# 地域との協働による高等学校教育改革 ～地域社会に開かれた魅力ある高校づくりに向けて～

島根県教育庁 教育魅力化特命官  
(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム 共同代表  
岩本悠

# 未来を変えた 島の学校

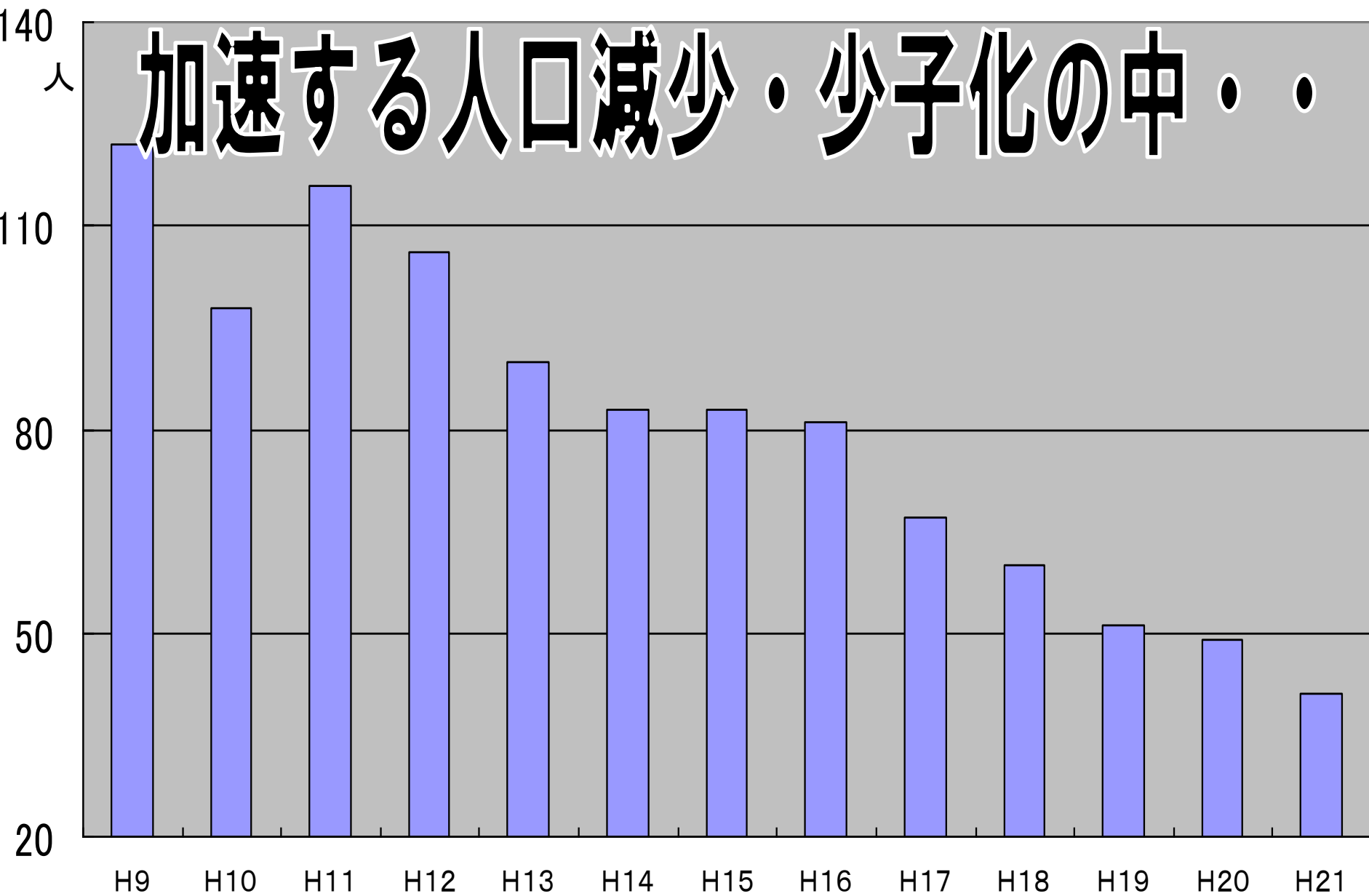
山内道雄 岩本 悠 田中輝美



おき どうぜん  
隠岐島前発  
ふるさと再興への挑戦

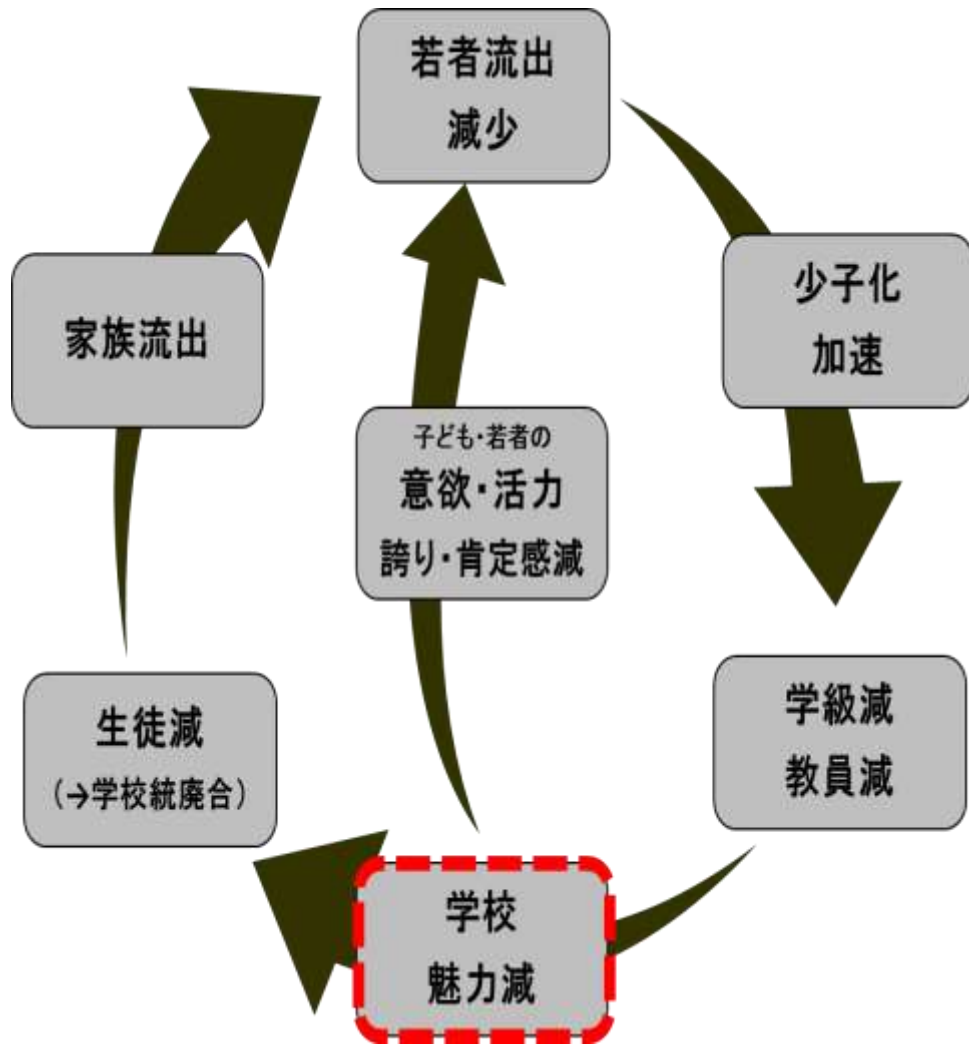
地域との協働による魅力ある高校づくり  
～隠岐島前高校魅力化の挑戦～

# 加速する人口減少・少子化の中・・・

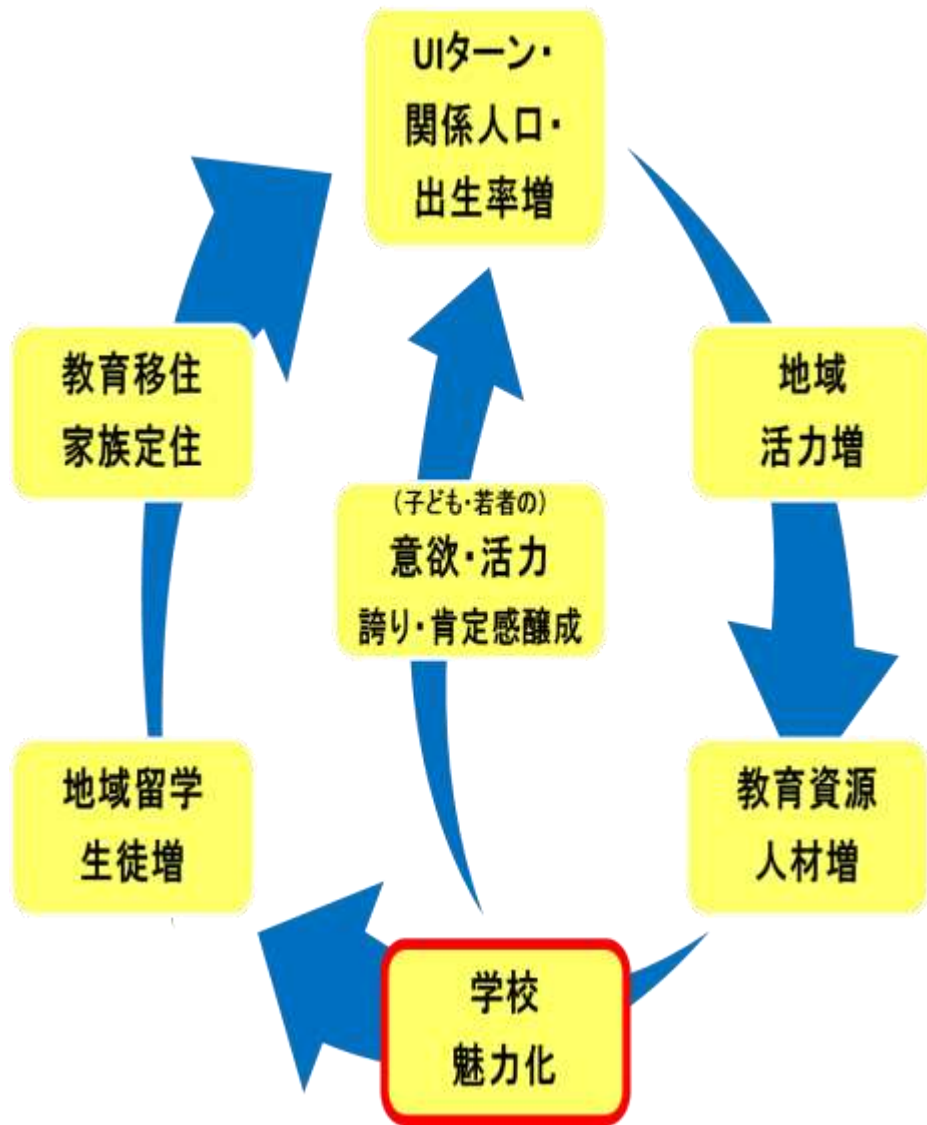


**地元の15歳人口の減少 (多くの地域の未来を先取り)**

# 地方に広がる悪循環 (地域・教育衰退スパイラル)



# 人づくり・人の流れづくりの好循環 (地域・教育魅力化スパイラル)



# 高校魅力化プロジェクト始動

生徒が「**行きたい**」、卒業生が「**行って良かった**」、地域も「**活かしたい**」、教員も「**行きたい**」と思う『**魅力**』ある学校づくり

学級減の  
**危機**

教育改革の  
**好機**

まち・ひとづくりの  
**盲点**

まち・ひとづくりの  
**拠点**

# コーディネーター配置・コンソーシアム構築

高校、役場、教委、議会、PTA、  
地域・民間団体、中学校、卒業生会等



◎コーディネーターを校内に配置

◎地域と学校・生徒の対話と協働で共通ビジョン策定

◎実働する協働チーム・コンソーシアム構築

# 地域の人づくりニーズ

## ●地域の課題(悪循環)

既存産業衰退、若者流出、後継者不足、公共依存  
(少子高齢化、文化・行事の衰退、財政難)

## ●地域の向かう指針

産業創出、若者定住、継承者育成、自立協働

## ●求められている人材

**地域で継業・生業・事業・産業を創る人材**  
《地域起業家的精神×グローバルマインド》

## 人材自給率アップ

「仕事がないから帰れない」 ⇒ 「仕事をつくりたいに帰りたい」

20世紀のふるさと観      21世紀のふるさと観

「志を果たして帰る」 ⇒ 「志を果たしに還る」

# ICTも活用 地域と世界もつなぐ

歴史・芸能

ものづくり

自然・環境

医療

教育・子育て

農業・漁業・  
林業・畜産業

科学・研究

行政・政治

観光

福祉

商業・経営

文化・  
暮らし

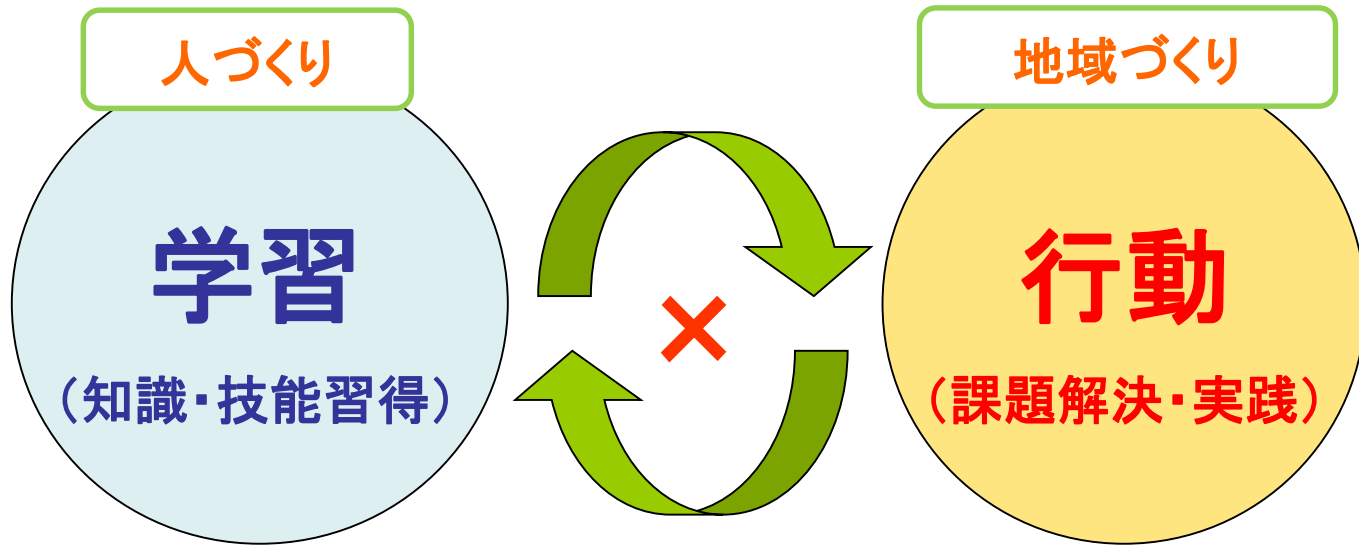


地域全体が「学校」、住民も「先生」、  
地域課題は「絶好の教材」



# 地域を舞台に課題発見解決に挑戦するプロジェクト学習

総合学習、各教科や部活動、生徒会、学校行事、土曜日、寮、公立塾等も活用



地域協働でのカリキュラムマネジメント  
地域課題を探究し、解決策を立案  
地域の方たちと実践するプロジェクト型学習



実際に育て、採って、食べる。

地域の課題の解決策を企画し、実践する。

国際交流スタッフやICTを活用した世界ともつながる学び。

## 教育環境の課題

地方の子ども・若者の課題

関係性の固定化  
価値観の同質化  
刺激や競争の不足



多文化協働力の不足  
広い視野・創造性の欠如  
チャレンジ精神の不足



# 未来を創る島留学

自分らしく生きられ

したことのない体験や

ステキな人にたくさん出逢える

この島で、最幸の高校生活をすごしませんか



学力+人間力保障

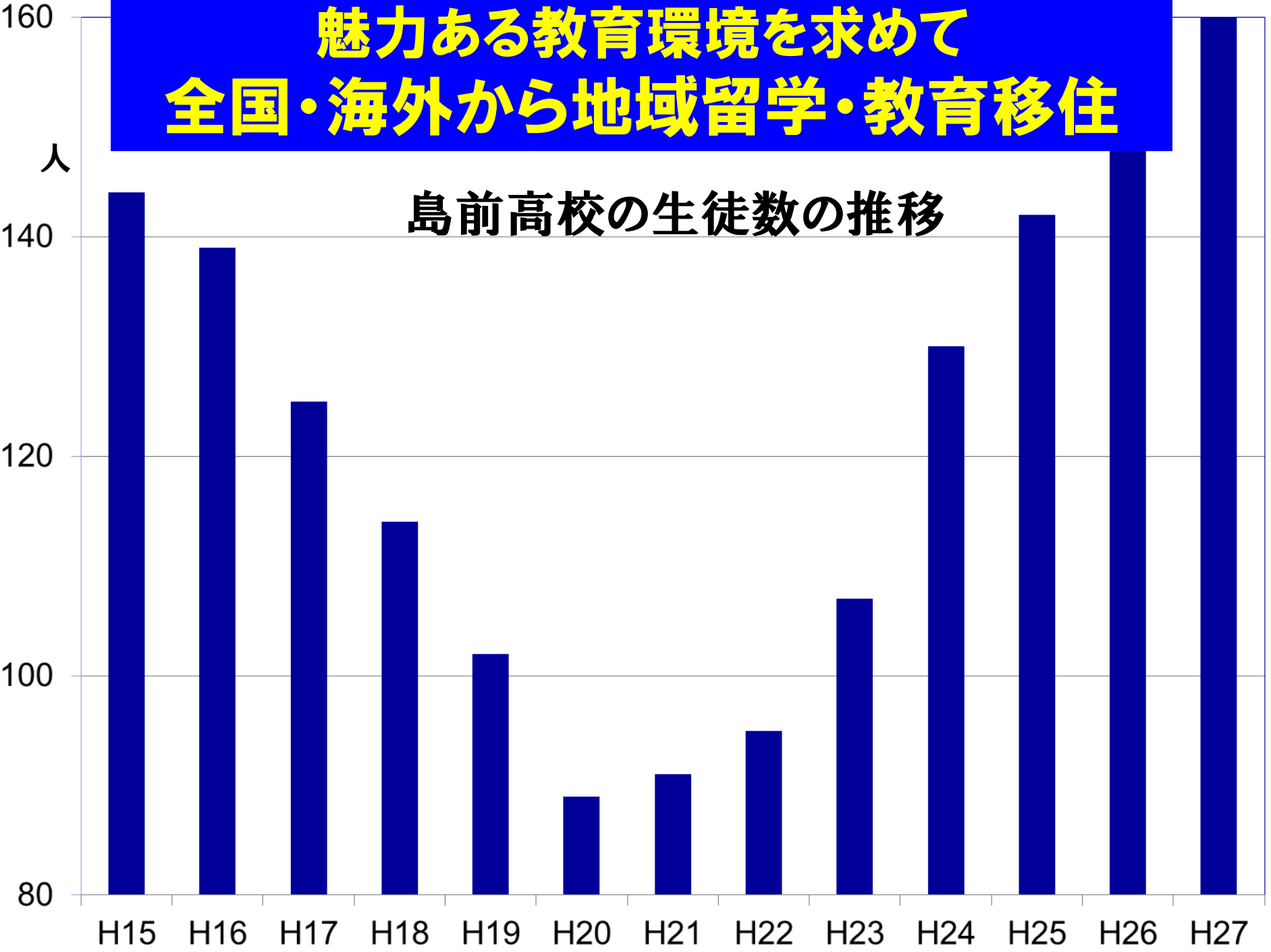


**全国から意志ある多彩な脱藩生募集**

**「異質性・多様性」を持ち込み活性化へ  
留学生と地域をつなぐ島親制度も創設**

# 魅力ある教育環境を求めて 全国・海外から地域留学・教育移住

## 島前高校の生徒数の推移



第1回プラチナ大賞(総務大臣表彰)  
第1回キャリア教育連携推進表彰(経産省・文科省)



**学習意欲や進路・卒業後にも変化**  
40人中2人⇒39人中13人が早・慶、国公立大等など

# 人の流れの反転

都市部から過疎地へ

子どもたちの地域外流出が止まる

**47%**

[2007年]



**89%**

地元高校への進学率 [2015年]

若い家族のUIターンで人口の社会増減が反転

**-107人**

[1996年～2005年]



**+53人**

[2006年～2015年]

年間平均出生数は2倍以上に増加

**8人**

[2003年～2005年]



**18人**

[2013年～2015年]

# 持続可能性の向上

## 地域活力の復興

地域の祭や文化が再興・継承（祭で神輿を出せる集落の割合）

36%

[2006年]



64%

[2016年]

地域の基幹産業の観光業が復活（観光客数）

9,329人

[2008年]



12,202人

[2015年]

人口減少予測を大きく覆す（海士町の人口）

2,007人

[2000年時点での2015年推計]



2,354人

[2015年実態]

# 卒業生たちの変化・学び続ける未来のつくり手

「30歳で町に戻って町長になり、住民幸福度日本一の町を実現する」



「将来、西ノ島にオーベルジュを開き、食と交流を通じて町を元気にしたい」



「島の大人は凄い人ばかり、いつか島に戻ってあの人達を超えたい」

「ICTを活用したスマートファームで知夫から畜産業の未来を変える」



「このまちの理容問題を解決する新店舗準備中です」



東京出身

「海士町の保育士になって、地域の魅力を活かした‘島の保育園’をつくりたい」



「今度EUを周るんで島のパンフをつくってPRしながら、何に興味をもつかマーケティングしてきます」



# 島根県全域に広がる高校魅力化

【地方創生交付金等の活用】

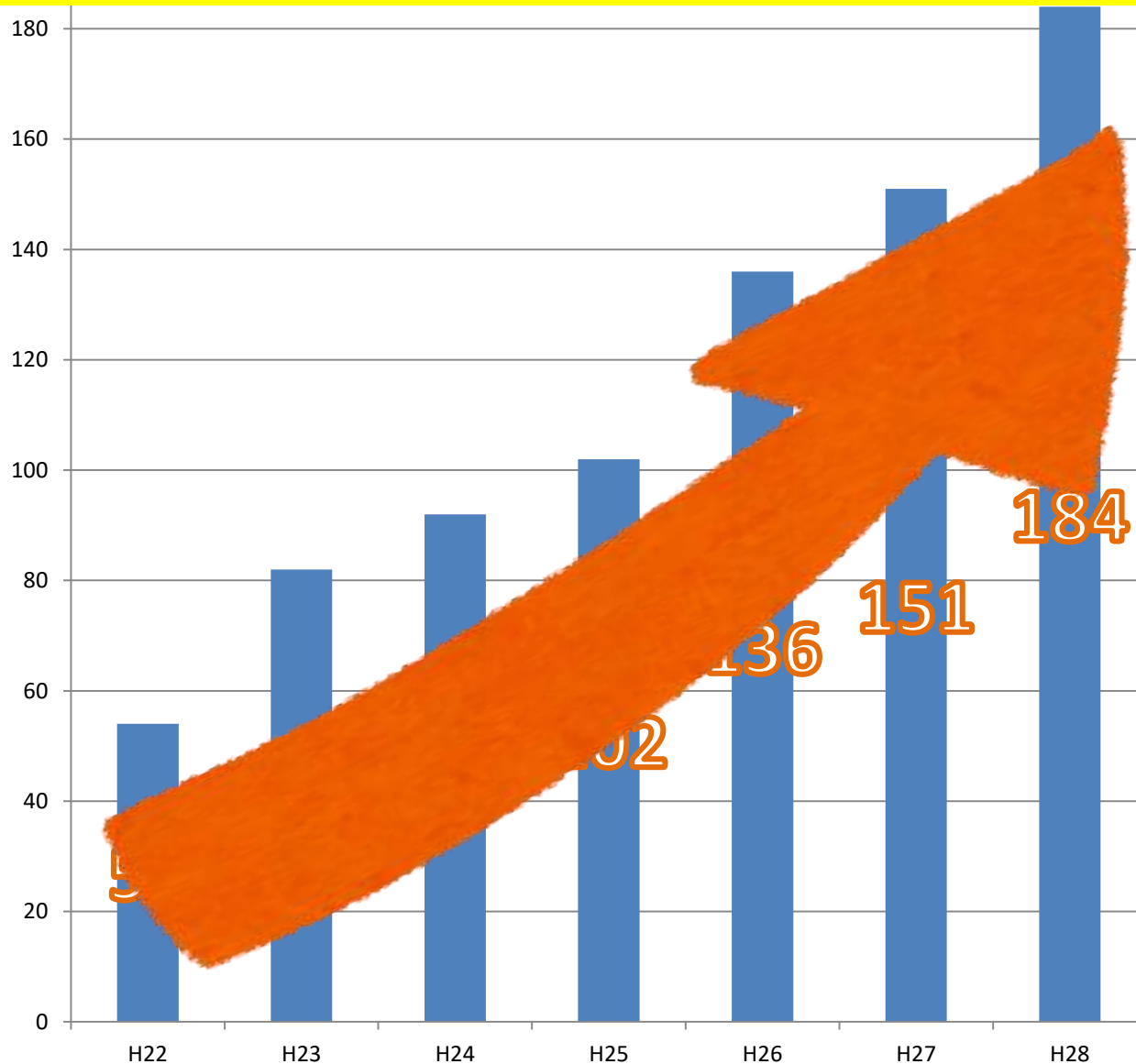
《県立高校魅力化ビジョン（案）》

- ・ 全県立高校に協働コンソーシアム
- ・ 地域課題解決型学習の全校実施
- ・ 県外国外からの生徒募集推進
- ・ コーディネーター確保・活用・育成
- ・ 県教委における各校の伴走支援
- ・ 学びの成果,学校評価の改革
- ・ 高校入試,中高接続改革 etc.



高校魅力化・教育魅力化事業推進市町村

# 県外から島根の高校へ入学する 「しまね留学生」も増加



県外中学校から  
島根県立高校へ  
入学した生徒数

# 島根県の事例

## 高校を核とした官民協働による地方創生プロジェクト（一部に地方創生推進交付金を活用（H30～H32））

～地域の未来を変えるレバレッジポイントは誰も予想しなかった「学校」にある～

- 公教育の場へ多様なセクターの参入を積極的に促し、「人の流れの反転」「次代の担い手の輩出」「地域の持続可能性向上」を目指す。
- 島根県内の意志ある市町村の散発的な取組を、県のリーダーシップのもと、大学や民間団体と協働し、県レベルでの取組として展開。
- 全国の自治体等との共学共創により新たな地方創生モデルとして全国へスケールアウト。

### 島根県海士町での「高校魅力化」による成果

人の流れの反転

次代の担い手の輩出

地域の持続可能性向上

- ◆ 廃校寸前だった隠岐島前高校が、生徒増・学級増、全国や海外からの志願者が溢れる高校へと転換
  - \* 隠岐島前高校生徒数：(H20)89人→(H29)184人
  - \* 1学年1クラスから2クラスへ
- ◆ 親子での教育移住や家族連れの出ターンが増加、教育分野や地域での起業に意識関心の高い有能な若者が流入
  - \* 社会増減が反転：(H9～H18)▲121人→(H19～H28)+85人

### 地方創生として目指す将来像

東京から地方へ、世界から日本へ

未来を自分たちで創る意志ある若者

課題解決先進国 NIPPONの実現

### K P I

県外・海外から県立高校への入学者数

地域課題解決に取り組む大人、高校生の割合

共学共創コミュニティへの地域・学校・行政のチームでの参加数

### 県レベルでの取組として展開

#### 【市町村】地域・学校現場での先駆的な取組の実践

- ◆ コアチームづくり
  - ・多様な主体による縦割りを排した「魅力化チーム」の創設
  - ・学校と地域をつなぐ「魅力化コーディネーター」の配置
- ◆ 地域に開かれた学校
  - ・「地域協議会」を結成、地域住民が学校経営に参加
  - ・「全国からの積極的生徒募集」（学校内の多様性確保）
- ◆ 共創的な学び
  - ・生徒が地域に出て多様な大人と共に学び、課題解決や地域づくりに安心して挑戦できる環境を創出 など

#### 【県】広域的な取組の推進、先駆的な取組の支援

- ◆ 教育環境の整備
  - ・主幹教諭・事務スタッフの配置、遠隔授業（ICT）の環境整備
- ◆ 市町村への支援
  - ・「地域協議会」の事業費支援、「魅力化コーディネーター」の配置支援
  - ・「全国からの積極的生徒募集」の合同説明会開催
- ◆ 市町村とのパートナーシップ
  - ・各市町村に伴走者を配置し、共学共創のコミュニティを創出
- ◆ 民間活力の活用
  - ・「子どもの成長指標」「社会的インパクト評価」の開発 など

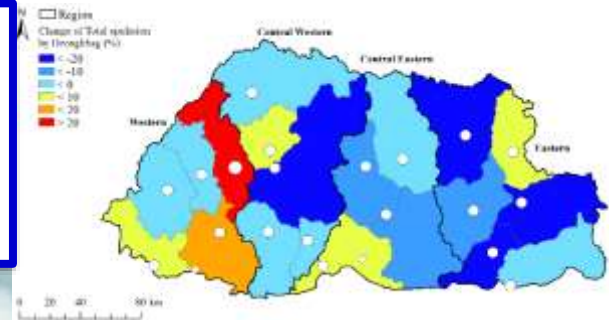


特別ソーシャルイノベーター最優秀賞  
～高校魅力化の全国支援～

(一財) 地域・教育魅力化プラットフォームの創設

# 海外へのスケール

日本の地域・教育創生が世界で評価。



**Edu-Port** (日本型教育海外展開モデル事業) に採択。ブータンから

# 高校魅力化

## Theory of Change



2  
地域・社会に  
開かれた「学校」



1  
コーディネーターを伴う  
協働体制の構築



3  
地域課題解決に挑む  
探究的な学び

生徒

創り手輩出

地域との協働による魅力ある高校づくりのポイントとは？

# 地域との協働による高等学校教育改革の推進

- 地域振興の核として高等学校教育の質の向上に取り組む。
- 高等学校と市町村、地元企業、大学等が連携し、高校生に地域課題解決等を通じた探究的な学びを提供する仕組みを構築し、成果を全国へ普及する。

## ポイント① コーディネーター

### 高等学校

- ・ 地域との協働による活動を学校の活動として明確化
- ・ 学内における実施体制を構築

- ✓ 地域における活動を通じた探究的な学びの実現(新学習指導要領への対応)
- ✓ 学校内ではできない多様な社会体験

### 都道府県教育委員会等

- ・ 高等学校の取組を支援、伴走
- ・ 教職員の研修等を通して知見を他の高校へ普及

### 高校生×地域課題

高校生の興味・関心を喚起

探究的な学びの場

大学・専修学校等

職業教育機関  
(専門学校等)

高等学校

小中学校等

地域NPO

市町村

(首長・教育委員会・議会等)

### コンソーシアム

- ・ 身に付けるべき資質・能力の共有や教育プログラムの開発
- ・ 学校と地域とをつなぐコーディネーターを指定

- ✓ 高校生のうちに地元地域を知ることにより、地元への定着やUターン促進
- ✓ 地域の活動に高校生が参画することにより、地域活力の向上へ貢献

高校生と地域課題のマッチングを効果的に行うための仕組みを構築

KPIを設定  
PDCAサイクルを推進

### コーディネーター



- ・ 高等学校と市町村等との協働体制の構築
- ・ 学校や地域とのマッチングを実施

# 地域との協働による 魅力ある高校づくりの要諦

**学校**

(例: 県立高校)



**社会**

(例: 行政, 塾, 大学, NPO, 民間etc)

**生徒**

(資質・能力育成)



**地域**

(活用・挑戦・課題解決)

**内者**

(同質・地者・ローカル)



**外者**

(異質・よそ者・グローバル)



イノベーションとは

既存の要素の  
新たな組合せ

新たな組合せ(連携・協働)をつくれる  
コーディネーション機能・人財が鍵

# 高校と地域社会をつなぐ「コーディネーター」

(平成30年度5月:全国140人・・・教職員を除く)



高校魅力化コーディネーター

教育改革 × 地方創生  
教育課程 × 社会 未来  
子ども × オトナ  
学び成長 × 課題解決  
人づくり × 地域づくり  
ローカル × グローバル



# 高校魅力化コーディネーターの主な役割・業務

## 1. 高校と地域の協働体制づくり

例) 協働の組織体制づくり、共通ビジョン・事業計画の策定、協議会の運営など

## 2. 地域社会に開かれたカリキュラムづくり

例) 授業、地域系部活動等でのPBLの開発・運営、インターン・海外巡検の企画・調整など

## 3. 地域社会での学習機会づくり

例) 公営塾など学外の環境整備、生徒の地域活動・社会体験・海外留学等の支援など

## 4. 人の流れと多様性ある教育環境づくり

例) 県外・海外の生徒募集、留学生受入、寮・下宿等の整備・卒業生の還元機会など

## 5. 社会資源を活用した基盤づくり

例) 外部資金の獲得、大学・民間企業等との提携、外部専門家の確保、県等との折衝など

# 高校魅力化コーディネーターの職務レベル

業務のレベル感として3階層がある

プロデューサー  
(調整監級)

課題を設定し解決の枠組みを整え、全体を統括する

ディレクター  
(企画員級)

設定された課題に対して、計画を立案・実行・改善する

サポーター  
(支援員級)

現場に寄り添いながら、計画の実現を支援する



パターンランゲージ①  
「WE」で語る

「あなた」と「私」ではなく「私たち」でいく。違う価値・地域のこと他人事としてとらえてしまい、一体感が生まれにくい。そこで、自分だけでなく、相手を含む大きな主題で話し、語るようにする。



パターンランゲージ③  
共に汗かく奔走者

同じ方向を目指して、最後まで一緒に走り続ける。自分だけでは達成できないことを、周りの人と一緒に成し遂げたい。



高校県におけるコーディネーターの主な役割、4  
新たな人の流れと  
多様な教育環境の創出

例) 県外や海外からの生徒募集、留学生受け入れ、  
夏・ア夜等の登壇、ホームステイ先の調整など。



高校県におけるコーディネーターの主な役割、2  
地域社会に開かれた  
カリキュラムの推進

例) 授業・生徒会・部活動等の地域課題解決型学習や  
海外研修等の企画・調整など。



パターンランゲージ②  
ねばれる仲間

地域外にいる人も含めて  
いく仲間を築きたい。  
てくれる役割ではやり  
真もじっくり伝えるよう



高校県におけるコーディネーターの主な役割、1  
高校と地域社会(行政、企業、NPO等)  
の協働体制の構築

例) 協働の仕組みづくり、共通ビジョン・事業計画  
の策定、協働会の運営など。



しまね  
高校魅力化参考書

高校魅力化に取り組む各現場に提供されてきた知見  
や経験を集めた参考書です。あくまで「参考書」です  
ので、この冊子をもとに、各現場で調整を怠りし  
実践するための手がかりに。

社会に開かれた学校づくりを推進する専門人材

# 高校魅力化コーディネーター というしごと。



パターンランゲージ⑧  
ちがうことの意味

経験してきたことの違いや立場の違いをあらわに表す  
す。先生や行政職員と異なる視点を持ち、違う立場



パターンランゲージ⑦  
未来への対話

先生や行政の人、地域の人と一緒に創りたいことに取り  
組むために、定期的に集り語り合う機会をつくり、成功



高校県におけるコーディネーターの主な役割、3  
地域社会での  
学習環境・学習機会の整備

例) 公民館など学校外の学習環境の整備。



学校と地域をつなぐパターンランゲージ  
-社会に開かれた学校をつくる旅-

学校・地域で「コーディネーター」の役割を担う人が、  
現場で一番踏み出すための実践のヒント集です。



パターンランゲージ④  
リストベクトルから

先生や行政の人、地域の  
きないことがある。都

# 島根県における高校魅力化コーディネーター

高校を核にした地方創生の実現に向け、学校（生徒、教職員、教育課程等）と地域・社会（社会教育、行政、大学、民間企業、NPO等）をつなぎ、地域社会に開かれた魅力ある高校づくりを推進する専門人材を高校魅力化コーディネーターとして、市町村が県立高校等に設置している。

## 1. 主な業務内容

- ・地域住民や保護者、中学校、行政、NPO等との協働体制の構築
- ・地域住民や行政等を巻き込んだ教育ビジョンの策定・遂行
- ・教科横断的な視点でのカリキュラムデザイン  
（教育課程及び指導計画等の策定支援）
- ・総合的な学習の時間や学校設定科目等の設計及び外部との  
コーディネーション
- ・授業、部活動、生徒会活動等での課題発見解決型学習（PBL）の  
ファシリテーション
- ・キャリア教育、地域連携、海外連携等の校務分掌支援
- ・県外や海外からの生徒募集の設計・運営、生徒の受け入れ環境の整備
- ・外部資金の調達（市町村事業、補助金、クラウドファンディングなど）
- ・寮や公立塾等の運営支援  
（経営企画、人材採用、連携体制構築、トラブル対応等）

## 効果

- ・生徒の地域活動への参画、主体性や協働性、探究性、社会性の高まり
- ・地域住民の教育活動への参画、地域課題を自ら解決しようとする人づくり・地域づくりの推進
- ・魅力的な教育活動による生徒数の増加
- ・学校を支える者の増加による教職員の多忙・多忙感の減少 など

## 2. 配置状況等

- ・県立高校13校に30人、市町村教育委員会等に27人
- ・20代17人、30代30人、40代7人、50歳以上3人
- ・経歴は、大手電機会社、大手情報出版会社、人材育成会社、  
大手小売企業など
- ・市町村が財源措置し雇用又はNPO法人等へ委託  
\*財源は、国特別交付税（地域おこし協力隊、集落支援員）、  
過疎債、市町村一般財源
- ・月額15万～35万円程度

## 3. 育成

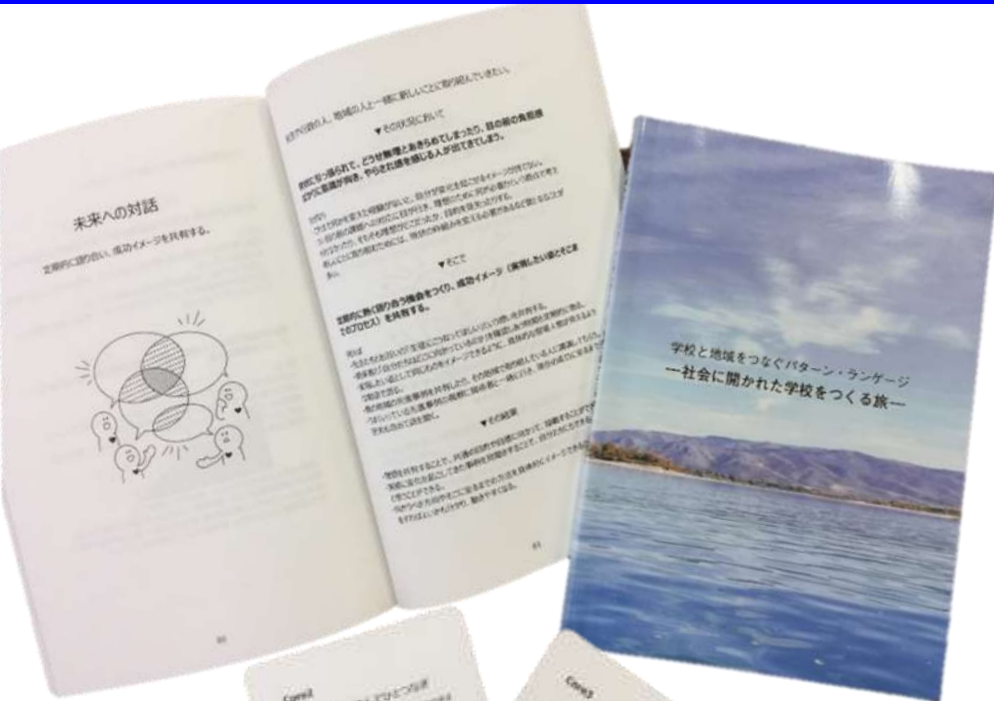
- ・県教育委員会主催の研修
- ・コーディネーター同士の共学コミュニティー構築  
（学習会、相互インターン、合同研修等）
- ・島根大学地域教育魅力化センターでの「地域教育コーディネーター  
育成プログラム」

## 課題

- ・学校や行政における位置づけが不明確
- ・役割の重要性に見合った処遇・環境・条件が整っていない  
（雇用形態の保証等） など

# コーディネーターの知見・行動の見える化

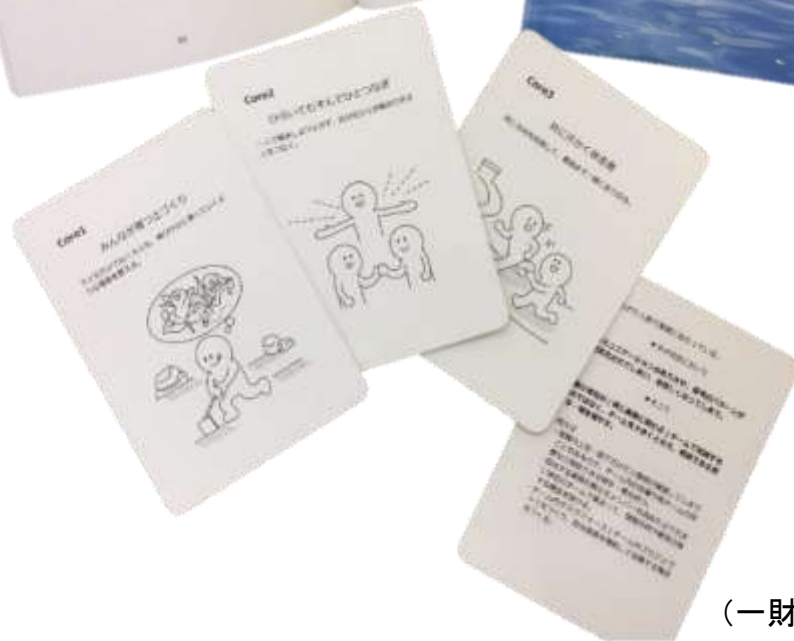
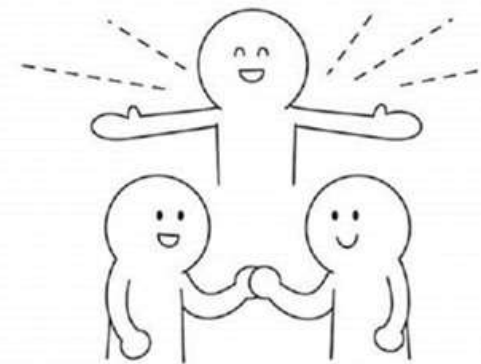
パターン・ランゲージを活用した評価・育成ツールを開発



Core2

ひらいてむすんでひとつなぎ

一人で解決しようとせず、自分をひらき解決できる人をつなぐ。



## パターン・ランゲージ

- ◆ 共有しにくい「コツ」を言語化したもの
- ◆ 成功している事例や経験者にみられる「パターン」を抽出し、抽象化を経て言語「ランゲージ」化

# 地域教育魅力化のリーダーを養成

本プログラムは、高校を中心とする教育の魅力化と地域振興とを結びつけ、地域活性化に取り組む島根県の自治体のノウハウと、大学の教育資源とを組み合わせたがら、教育現場と地域を結び「地域教育コーディネーター」を養成する1年間のコースとして平成28年に開講しました。すでに32名が修了し、平成30年度は18名が受講しています。今後高まるコーディネーターのニーズに対応できる日本で唯一の大学と地域が協働で行う

おしえて修了生!

本コースで学んだことを実践で活かすことで現場や自分にどんな「変化」が起きましたか?



# 島根大学は地域教育魅力化センターを設置 地域と高校をつなぐコーディネーター育成コース開講 25都府県/50人が参加

## 履修内容

- 教育魅力化論：ビジョンの作成、実現に求められる資質・能力を身につけます。
- グローバル人材育成論：グローバル時代における地域活性化を実現する知識・技能を身につけます。
- コーディネーター論：学校・地域等の巻き込みや事前調整、関係構築のスキルを身につけます。
- カリキュラムマネジメント論：社会に関わった教育課程の実現に向けた資質・能力を身につけます。
- コミュニティデザイン論：地域づくりの担い手を生み出す、基本的なプロセスを学びます。
- 地域教育プロジェクト基礎論：基礎的理論を学びます。
- ゼミ：プロジェクトを設定し、各課題で習得した知識を用いて調べていき、実践的能力を高めます。



＜修了要件＞  
講義、実習、ゼミを選択し必修時間以上を履修することが求められます。各科目の詳細はホームページをご覧ください。

＜履修期間＞  
2019年4月1日～2020年3月31日

コースの詳細はサイトにてご確認ください  
地域教育魅力化センター ウェブサイト  
<https://cerd.shimane-u.ac.jp/fmf>

## 講師紹介

**岩本悠**  
島根大学 地域教育アドバイザー  
島根県 教育庁 教育課長(臨時職員)

平成時代、1年間でアジア・アフリカ20か国の地域開発の現場を経る、卒業後、大手電機会社にて人材育成・組織開発、社会起業家等に参画、2006年島根県教育委員会に専任で参事し、県教育委員会の地域活性化に貢献。

**豊田庄吾**  
島根大学 地域教育コーディネーター  
障がい者学習センター センター長

大学情報協議会、人材育成協会を経て、2009年島根県障がい者福祉センターに参事。高松大学助産師、障がい者学習センターを立ち上げる。2013年、県教育委員会より障がい者学習センターコーディネーターの委嘱を受け、キャリア開発の現場も行う。

**宮野準也**  
島根大学 地域教育コーディネーター  
知夫村教育魅力化コーディネーター

大学の専攻で4年卒、島根県教育魅力化プロジェクト(障がい者学習センター)で専攻卒業し、2010年4月人口6000人の障がい者村に参事。知夫村教育魅力化コーディネーターとして、小・中・高校教育の設計・運営や、障がい者学習センターの設計のサポートなども行っている。

**中村伶詞**  
島根大学 教育実践科(国際文化学) 准教授

2013年4月から2018年3月まで障がい者福祉センター島根県教育魅力化プロジェクトを推進。キャリア開発責任者として地域開発・体験型のキャリア教育や地域課題解決の探究学習を推進・運営。障がい者福祉センターや障がい者学習センターの設計・運営や、障がい者学習センターの設計のサポートなども行っている。

**岡崎エミ**  
東北工業科大学  
コミュニティデザイン学科長

早稲田大学卒業後、出版編集を経て、volunteerに参加。海と島根白鷺県民館館長をはじめ、各地の公民館のまちづくりに関わる。2014年より島根県立島根大学コミュニティデザイン学科にて人材育成に関与している。

**小田順二**  
島根大学 教育実践センター 専任教授  
ふるさと魅力化プロジェクト推進コース部長

大分県立大学で26年法人事業企画等に携わる。グローバルビジネス展開でのキャリア開発、リーダーシップ開発を専攻領域。



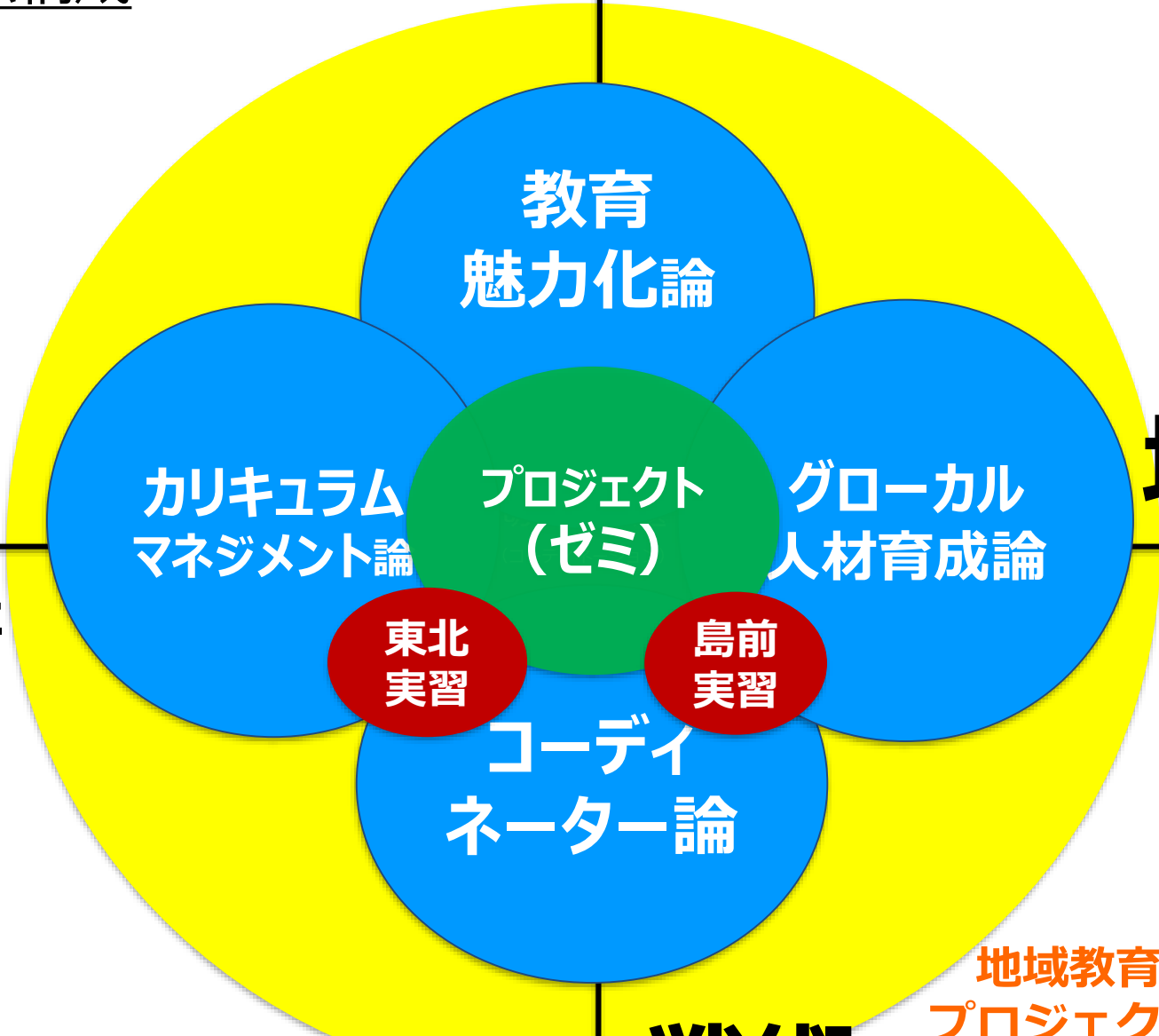


# 全国の教職員、コーディネイター、行政・大学教員、 塾、NPO、民間等が協働で学ぶ ICT活用型ハイブリッド学習



コーディネーター育成  
プログラム構成

ビジョン ↑ **戦略**



**学校**

← **教育課程**

**地域**

→ **社会**

**教育  
魅力化論**

**カリキュラム  
マネジメント論**

**プロジェクト  
(ゼミ)**

**グローバル  
人材育成論**

**東北  
実習**

**島前  
実習**

**コーディネーター論**

**実行 ↓ 戦術**

**地域教育基礎論**  
**プロジェクト基礎論**  
**コミュニティデザイン論**

# 対象

地域教育/高校魅力化の未来を創る  
意志ある「個人」及び「チーム」

申込締切:平成30年11月30日



教職員、行政職員、コーディネータ、塾・企業・NPO職員等

# コーディネーター育成の事例（島根大学）

## 地域・教育コーディネーター育成プログラム（島根大学 地域教育魅力化センター主催（H28～）） ～高校を中心とする教育と地域を結ぶコーディネーターを育成する1年コース～

- コーディネーターをはじめ、教員、高校に関わる市町村職員、県教育委員会指導主事、大学教員、教育系NPO職員、民間人等が協働で学ぶ。
- 3期で25都府県の50名が受講。15名定員のところに毎年定員を大幅に超える応募者があり面接等で選考を実施。
- 演習、実習、ゼミ等で120時間以上を履修。約7割はICTを活用した遠隔ライブの双方向型授業。年4回、実習や演習を島根で実施。

### 科目

「コーディネーター論」「カリキュラムマネジメント論」「教育魅力化論」  
「グローバル人材育成論」「地域教育基礎論」「プロジェクト基礎論」  
「地域実習（海士町・飯南町）」「課題プロジェクト（ゼミ）」

### 受講者の属性

コーディネーター	19人
市町村行政職員	9人
学校教員	6人
教育委員会（県/市町）	3人
公立塾	3人
民間企業・その他	10人



### 受講生の居住都道府県



## ポイント②

個人頼み  
(属人モデル)

協働チーム  
(チームシップ)

### 高等学校

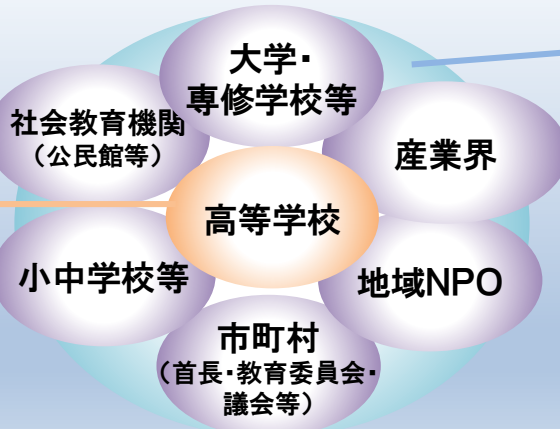
- ・地域との協働による活動を学校の活動として明確化
- ・学内における実施体制を構築

- ✓ 地域における活動を通じた探究的な学びの実現(新学習指導要領への対応)
- ✓ 学校内ではできない多様な社会体験

### 都道府県教育委員会等

- ・高等学校の取組を支援、伴走
- ・教職員の研修等を通して知見を他の高校へ普及

### 地域



### コンソーシアム

- ・身に付けるべき資質・能力の共有や教育プログラムの開発
- ・学校と地域とをつなぐコーディネーターを指定

- ✓ 高校生のうちに地元地域を知ることにより、地元への定着やUターン促進
- ✓ 地域の活動に高校生が参画することにより、地域活力の向上へ貢献

## 協働体制

# 《コンソーシアム》

### コーディネーター



- ・高等学校と市町村等との協働体制の構築
- ・学校や地域とのマッチングを実施

# 深い対話と協働的なプロセスによる 協働チームづくり(例:巡検・WS・大人のPBL)



# セクターを越えた 協働のコンソーシアム構築



- ◎各主体のキーマンの人選と役割期待
- ◎地域と学校・生徒の対話で共通ビジョン・目標設定
- ◎行動を伴う実働部隊・体制の整備